第 101 回 東葛しぜん観察会

利根運河に春の花を訪ねて

高橋 節（松戸市）

日　時：2014 年 4 月 6 日（日）9 時 30 分〜12 時 50 分
場　所：利根運河（流山市）　　天気：晴
参加者：一般 18 名、指導員 18 名＋協議会 2 名　担当指導員：北山・高橋・長谷川

天候にも恵まれて、季節は少し遅くて例年のようには多くの花を観察できませんでしたが、予定されていた花以上のものを観察できたのではないでしょうか。この利根運河が開通したのは明治 23 年、それまでは銚子から利根川を通り関宿から江戸川に入り、東京に荷物を運ぶというコースでした。関宿回りのコースですと川底が浅く、荷物を途中で大型から小型の船に移し一部陸路を使うなど利便性に欠けていました。そのため船戸から野田を結ぶこの運河がオランダの技師ムルデルによって設計され、わずか 2 年で完成し、開通したものです。全長 8.5 ㎞、運河ができたことで 40 ㎞短縮され、一日 103 隻の船が行き交い、利便性は良くなりました。鉄道の開通、トラック運送の発達などにより 50 年の歴史をとじました。その運河の土手は今では自然豊かな市民の憩いの場になっています。

土手の桜は例年より開花が早く、花散らしの桜でしたが、その下を歩く観察会もまた風情のある景観で、土手の植物は反対に何時もより遅く、この時期にみられる花が少なく、それでも２㎜ ぐらいのキュウリソウのブルーの花やオオイヌノフグリ、タチイヌ・コゴメイヌノフグリなどをみることができました。カラスノエンドウなど例年ですとにぎやかなのに、今年は開花しているものを探す状態でした。ちいさい頃おママがごとに使ったヒメオドリコソウは花盛りで、ホトケノザとの比較するのには適していました。今日はヒメオドリコソウだけはしっかり覚えて帰るといわれる方もいて、普段何気なく散歩されている方は、良く見るといろいろな花が咲いているのですね、と感想を言われていました。一口にタンポポといってもこれだけの種類がありますと写真をみてもらい、関東タンポポの特徴を覚えてもらい、皆さんで探してもらいました。ほかにもイヌナズナの黄色の花、タチツボスミレの薄紫色の花、アマナ、フラサバソウの群生、トウダイグサを観察することができました。ヤブカンゾウの群生は刈られずに夏まで残っていると、日光キスゲのようなオレンジ色の花が土手に見ることができます。

参加者の感想の多くに「とても楽しかった。これからの散歩の楽しみができ、植物を見る目ができました。楽しい時間をいただき始めてみた花がいくつかあって、詳しく説明していただき一層楽しい思いです、ありがとうございました」とありました。

案内した私も楽しい時間を過ごさせていただき指導員のお役目が果たせたかなと・・・。季節を変えてまた観察に出かけてみたいと思います。

ノジシャですね